

URAYASU ART PROJECT ? 〈浦安藝大〉

「浦安藝大」は浦安市と東京藝術大学が連携し、市民とともにアートによって新たな価値の創出やまちの魅力向上、地域や社会課題解決のきっかけづくりをしていくプロジェクトです。

浦安市のまちの魅力向上を図り、本市の地域や社会課題解決のきっかけづくりを行うため、アートプロジェクトを実施しています。

「浦安藝大」は浦安市と東京藝術大学が連携し 2022 年に発足しました。市民とアーティスト、行政が共に浦安市の課題を考え、年間を通して楽しみ学び合う場を創出することを目指しています。作品制作やワークショップをはじめ、アーティストが市民と関わることを大切にしています。

「アート」で課題を直接解決できるわけではありませんが、さまざまな人々が暮らす浦安市において、人と人がつながり、より暮らしやすいまちを創る一助となるよう、本プロジェクトでは、アートを用いた市の課題解決に取り組んでいます。



浦安藝大は、一人ひとりの中にある「？」を大切に、分からないこと、分かり合えないことをありのままに共有できる。そしてそれらを抱えながら未来を創ることを考える場でありたいと考えています。



浦安藝大公式ホームページ
<https://urayasu.geidai.ac.jp/>

主催： 浦安市、東京藝術大学
共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点

浦安市の今日的な社会課題

本展では現在進行中のプロジェクトが取り組んでいる課題をご紹介します。

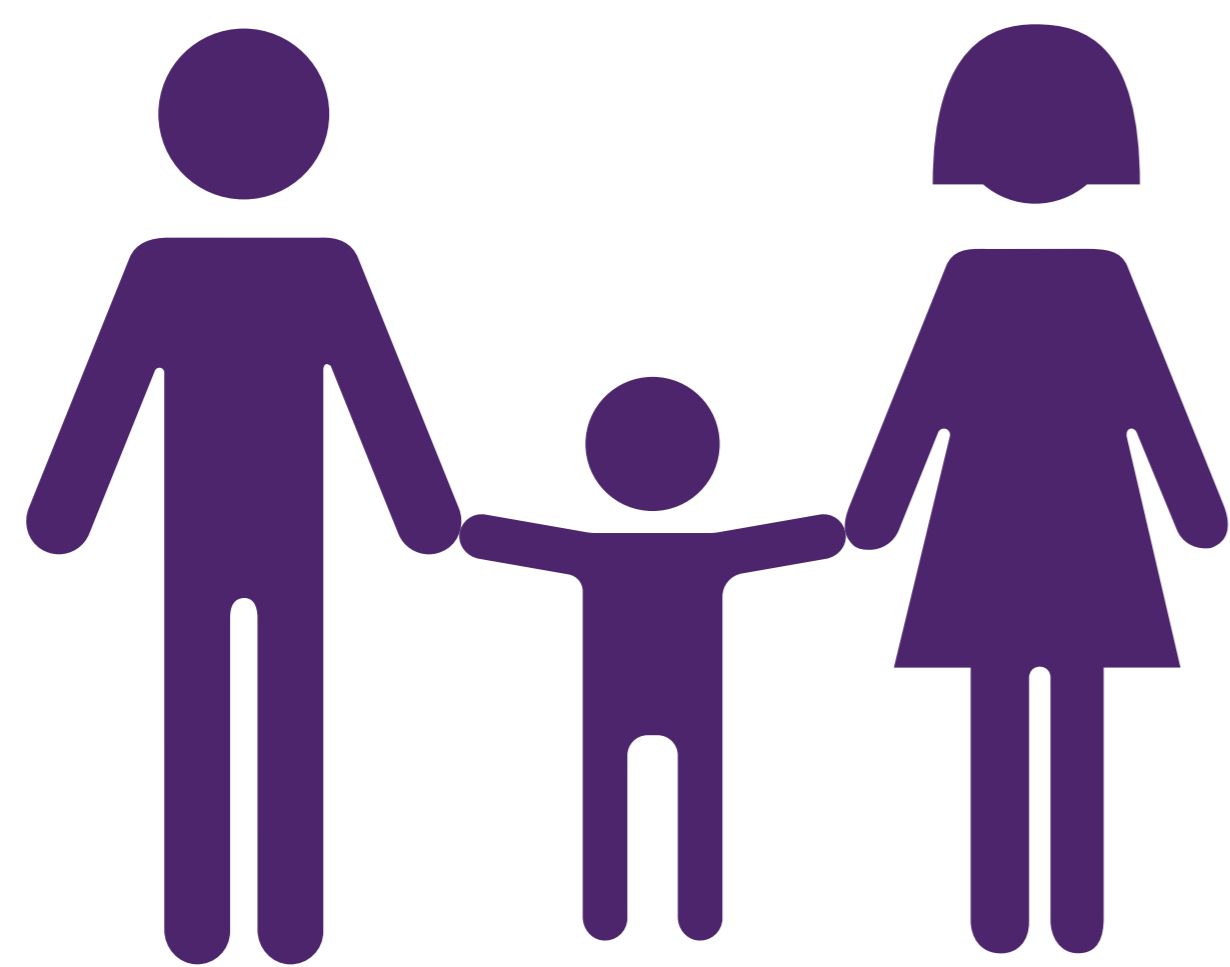
人と人の「つながり」を生むために



【社会的孤立の防止】

日常生活もしくは社会生活において孤独を覚えたり、社会から孤立していることで心身に良くない影響を受けている状態を「孤独・孤立の状態」とするのであれば、孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において誰にでも生じ得るものです。孤独・孤立の要因や状態は多様です。社会の変化により個人と社会及び他者との関わりが希薄になる中で、わたしたちはいかに孤独・孤立と向き合うのでしょうか。

子どもが安全に豊かに暮らすには？



【児童虐待の防止】

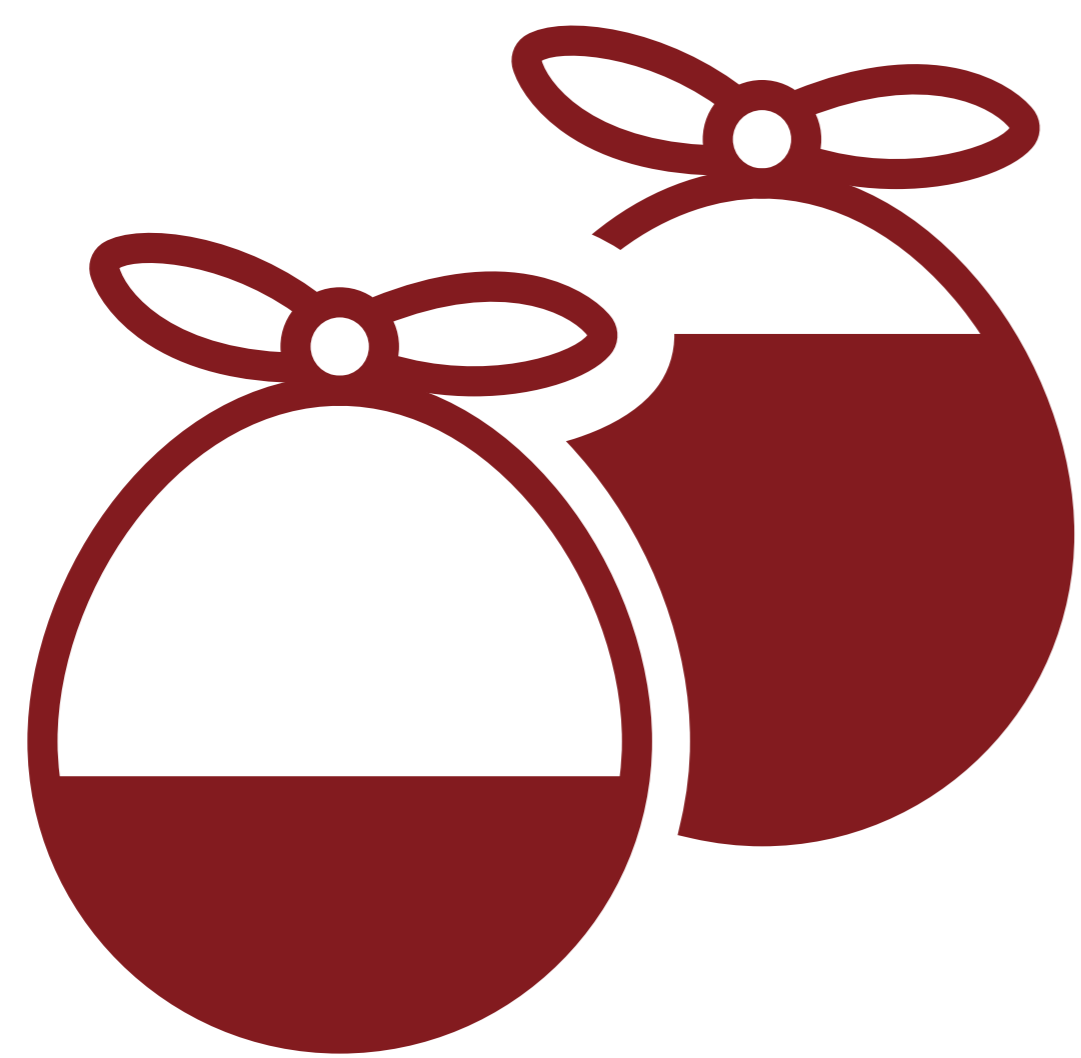
浦安市では児童に関する相談は年に900件程度あり、虐待の通報の他に子育てに関する相談も増えています。そのように子育てに悩む家庭へ早めに対応することで、深刻な虐待に至らないように予防につなげています。また周辺の大人からの通報だけでなく当事者の子どもたち自身が助けを請える環境づくりも課題であります。子どもたちが安全に豊かであるとき大人もきっと安全で豊かであるはず。子どもが子どもらしく生きられるためにわたしたちには何ができるのでしょうか。

いじめはなくすことができる？



【いじめの防止】

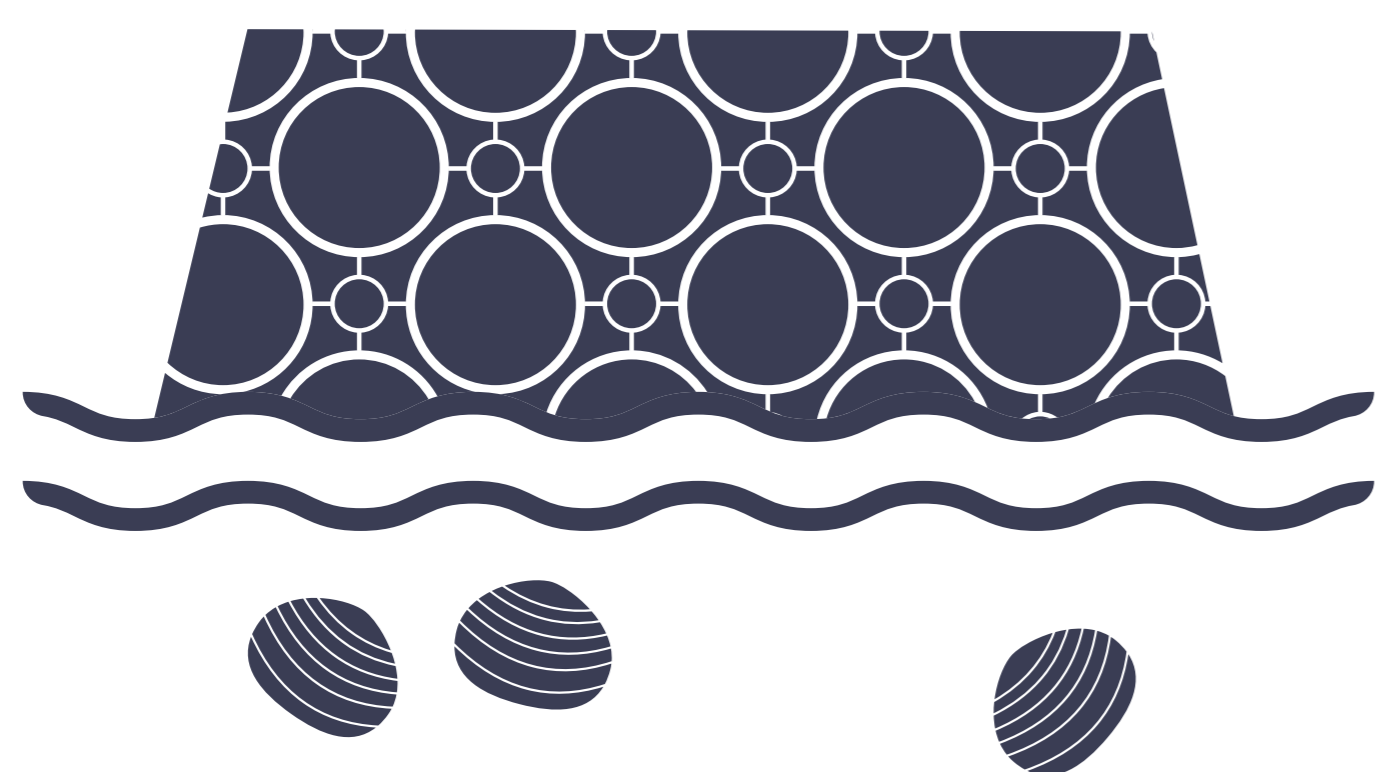
いじめは人の尊厳を傷つけ、時には命を奪うことすらある深刻な行為です。多様性を理解し、ちがいを尊重し、認め合って生活していくことで、いじめ防止や誰もが自分らしく生きやすい社会の実現につながるはずです。お互いのちがいを認め合えることこそが根底にある普遍的な課題かもしれません。わたしたちはいじめをなくすことができるのでしょうか。



【ごみの減量化】

ごみはどこへゆくのか？

人は生きていく限りごみを出し、浦安市のようにたくさんの方が集まり住む場所では、それらのごみをどう集めどう処理するのか、健全な暮らしのために常に探究されています。そして、持続可能な暮らしのためにごみの捉え方を更新し活用していくことを考えなければなりません。浦安市では4Rを推進しており、リサイクルの更なる促進と食品ロスの削減などによりごみの減量へつなげることを目標としています。わたしたちの生活と密接なごみはどのような存在でどこへゆくのでしょうか。



【第一期埋立護岸の利活用】

第一期埋立護岸ってなに？

浦安市は漁師町だった時代から数度の埋め立てを繰り返し、市域は4倍に広がりました。そしてその埋め立て事業には第一期、第二期とあり、第一期埋め立て事業の際にできた護岸はその役割を終え、浦安市の歴史を語るものとして今川地区から入船地区にかけて現存しています。一方で東日本大震災の被害により一部損傷がみられます。わたしたちは今後、旧護岸が語る浦安市の歴史をどのように継承していくのでしょうか。



【5.5m 道路の利活用】

5.5m 道路、どうつかう？

5.5m 道路とは北栄、猫実、当代島地区の一部の道路です。地盤沈下解消のための北部土地改良事業で整備された水路が、その後、暗渠（あんきょ）化されました。その名の通り道幅は5.5mであり、農地用水路の上に蓋をしてアスファルト舗装をかぶせた構造となっているため重量制限があり、車止めにより車両の通行を制限しています。5.5m道路ではどんなことができるのでしょうか。



【がん検診の受診率の向上】

健康とはなんだろう？

浦安市では市民の死因第一位であるがんに対して6種類のがん検診の実施や、働く世代の健康課題への取り組みなどをおこなっています。心身の健康は人間がその人らしく生きるための基盤であり、そして豊かなまちの基盤でもあります。そもそも健康とはどのようなものなのでしょうか。そして、わたしたちはいかにして健康な暮らしを築けるのでしょうか。

2024 年度 プロジェクトの紹介

西尾美也＋林央子 「拡張するファッション演習」



【関連する社会課題】



【社会的孤立の防止】

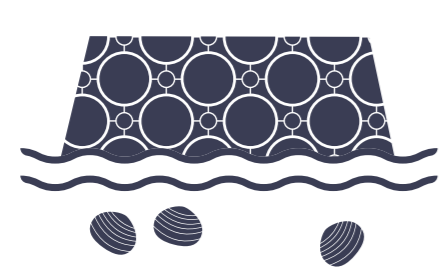


ファッションは赤ちゃんからお年寄りまで、どんな人の生活とも結びつく身近な存在です。そんなファッションは、社会的孤立の問題に対してどのようなアプローチができるのでしょうか？令和5年度から浦安市で始動した「拡張するファッション演習」は、ファッションの対話的・協働的な側面に光をあて、アップサイクル（廃棄された・廃棄間近な素材や、古着の再利用）を経由して、社会的孤立の問題について思考・実践する試みです。アートプロジェクトに装いを導入する活動で知られる美術家・西尾美也が主宰する授業形式のアプローチに、書籍『拡張するファッション』（2011）でファッションを多分野にひろげる提案を行った林央子と、衣服への触覚的な欲望や、ケアとしての衣服といった観点からファッション研究を行う安齋詩歩子が参入し、プロジェクトを進めています。いっしょにできると思われるあなたもぜひ参加してみませんか？

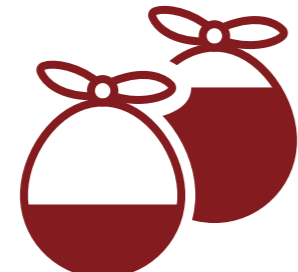
檜村芙実＋蓮溪芳仁＋檜村研究室 「Value of Waste」



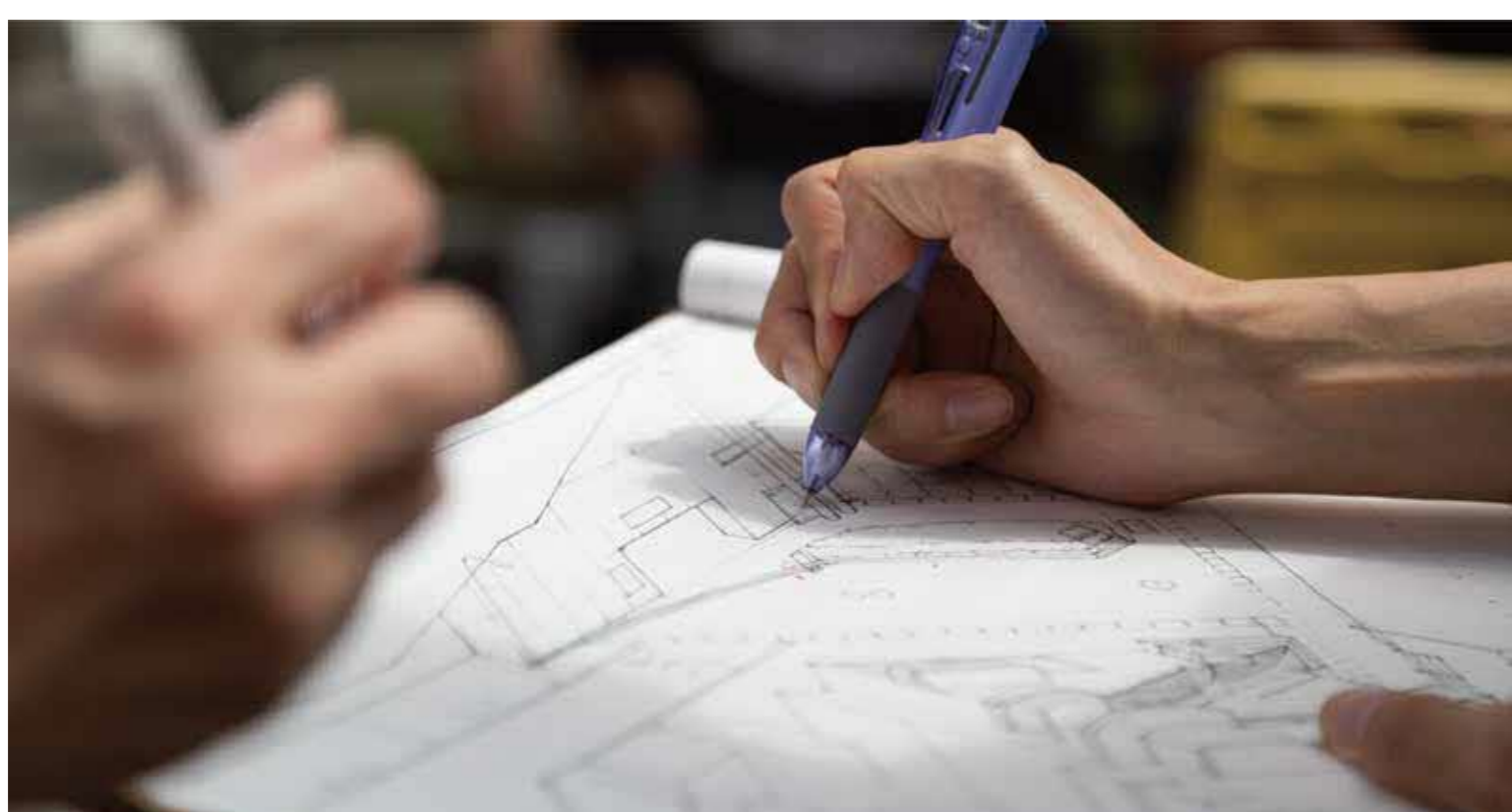
【関連する社会課題】



【第一期埋立護岸の利活用】

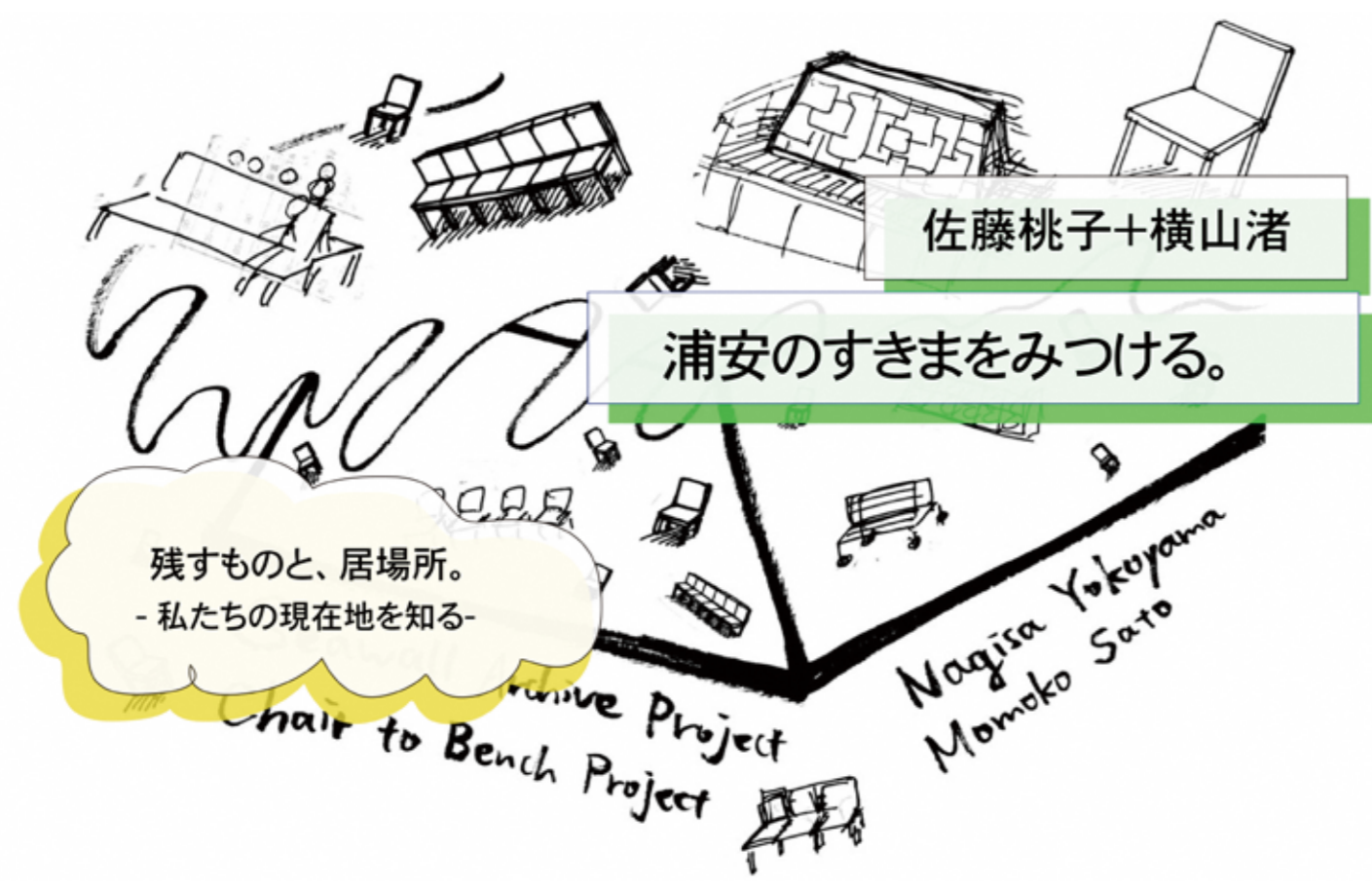


【ごみの減量化】



日本とウガンダでの活動により、土地の個性を活かす建築を目指す建築家・檜村芙実がディレクションする当プログラムは、建築家・蓮溪芳仁と東京藝術大学建築科・檜村研究室がチームとなって取り組んでいます。浦安市の環境や構造物、人々の行動などを解体・分析することで、地図情報だけでは得られない情報を見出す新たな視点を探っていきます。眼で見て、手肌で感じた場所や空間を記述する彼らのリサーチは、観察と制作を繰り返し、場所との対話を試みることで、課題そのものをほぐしていきます。それは結果ではなく過程をおもしろがり、まちを眺める方法といえるかもしれません。そのような特徴を活かし、昨年度は「ミチニワと観測所」と題して〈防災〉と〈水害〉、今年度は「Value of Waste」と題して〈ゴミの減量化〉と〈第一期埋立護岸の利活用〉の課題を内包したプログラムに取り組みます。

佐藤桃子+横山渚 「浦安のすきまをみつける。」



「浦安のすきまをみつける。」では、浦安市出身のアーティストによってさまざまなワークショップを開催します。パフォーマンスを軸に自己と他者との関係性を探る佐藤桃子、写真を用いて現在地を探し、場所をとらえ直すことについて関心を持って作品を展開する横山渚を迎え、プロジェクトに伴走するライターの屋宜初音が参与観察をおこないます。

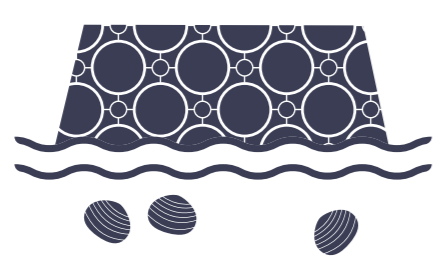


護岸アーカイブプロジェクト

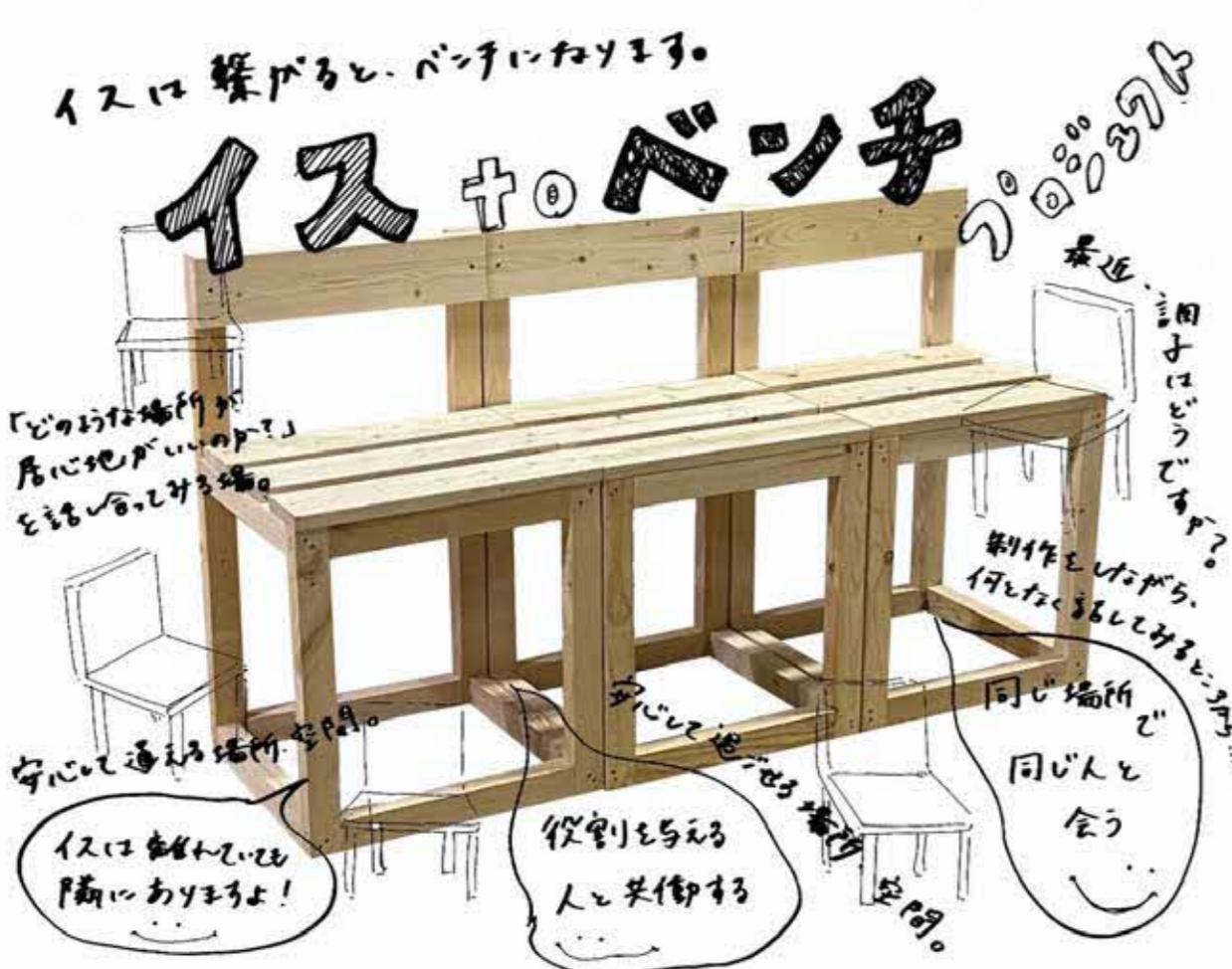
—埋立地の記憶を保存する (Seawall Archive Project)—

アートでまちの記憶を記録していくプロジェクトです。過去の埋め立て事業の際にできた今川地区から入船地区に続く第1期埋立護岸は今では本来の役割を終え、浦安市の歴史を語るものとして残っています。この埋立護岸をまちの記憶としてどのように伝えていくかについて、アーティストと一緒に手を動かしながら考えていきます。

【関連する社会課題】



【第一期埋立護岸の利活用】



イス to ベンチプロジェクト

「居場所」と「つながり」をテーマにしたワークショップです。イスをつくり、様々な場所に置いてみます。まずは「自分」という点を可視化する装置としてのイスを自分の手でつくってみます。そのイスを通して他者と自分の現在地の距離を認識し、相互に影響を与え合ったり、時には影響を与えないことで、個々の存在を尊重しながらつながりを深めていきます。そんなことを集まった参加者で実験してみます。

【関連する社会課題】



【社会的孤立の防止】